東京慈恵会医科大学同窓会看護学科支部 支部通信 Vol.8

東京慈恵会医科大学同窓会看護学科支部　2026年8月発行

第11回 看護学科ホームカミングデー
令和8年度 同窓会看護学科支部総会

卒業生のキャリア支援として、第11回看護学科ホームカミングデー、および同窓会看護学科支部総会を開催いたします。看護学科ホームカミングデーでは、看護学科大講堂にて同窓生による鼎談や学生ホールでの立食形式の歓談を予定しております。ぜひ同窓生の皆様で声を掛けあい、母校にお集りください。皆様と直接お会いできることを楽しみにしております。多くの方のご参加をお待ちしております。

2026年11月29日(日)
開催方法:対面

開催場所:東京慈恵会医科大学国領キャンパス
看護学科大講堂、学生ホール(参加費無料)

プログラム

～13:15	専門の会(各会により開催時間は異なります。参加は希望者のみです。別途同封のチラシをご覧ください)
13:30～	同窓会看護学科支部総会
14:00～	ホームカミングデー開会　学長挨拶　松藤千弥学長
	「看護学科の現在と展望」看護学科長　北素子教授
14:45～	鼎 談:「子育て世代のキャリア選択ー自分らしく働き続けるために」
	司 会:坂木孝輔　成人看護学助教
	ゲスト:深井しのぶさん（1期生）東京慈恵会医科大学附属病院治験センター　臨床研究コーディネーター
	鈴木怜夢さん（12期生）聖路加国際病院麻酔科 アシスタントマネージャー 周麻酔期看護師
	内田文耶さん（15期生）調布市 福祉健康部 高齢者支援室 高齢福祉担当
15:20～	大学院紹介　大学院看護学専攻長　小谷野康子教授
15:40～	学生ホールにて立食、歓談
16:40	閉会

Homecoming Day Report

第10回看護学科ホームカミングデー・令和7年度同窓会看護学科支部総会開催

2025年11月30日(日)、第10回看護学科ホームカミングデーと令和7年度同窓会看護学科支部総会を、看護学科大講堂にて開催しました。当日は同窓生・教職員あわせて50名を超える方が参加しました。支部総会では武石同窓会会長のご臨席を賜り、会長がご準備くださった東京慈恵会医科大学西部医療センターの映像を「慈恵の歌」の斉唱とともに披露し、特別なひとときとなりました。ホームカミングデーでは、松藤学長のご挨拶に続き、北学科長が「看護学科の現在と展望」と題して講演。座談会「卒業生アワー 慈恵がいいとも」では、「慈恵から羽ばたいた私たちがこれからチャレンジしたいこと」をテーマに、井藤千英さん(13期)、小川夏渚子さん(25期)、大植日葵さん(30期)が登壇し、現在の目標や夢、学生時代の学びが今のキャリアにどうつながっているかを語り合いました。進行役は坂木孝輔(13期・成人看護学助教)がサングラス姿で務め、和やかな雰囲気に包まれました。最後に柳澤裕之学長補佐の乾杯で学生ホールにて懇親会が開かれ、旧交を温める交流の場となりました。



卒業生の現在

9期生　斉藤 麻里

東京慈恵会医科大学西部医療センター

私は現在、東京慈恵会医科大学西部医療センターで、感染対策部門の専従看護師として勤務しています。感染対策に興味を持ったのは看護師5年目でした。当時、すでに附属病院を退職し行政の保健師になることが決まっていた時期でしたが、その後、再就職や病院間異動などを経験しながら、2014年に感染管理認定看護師、2021年に感染症看護専門看護師の資格を取得し、現在も病院の感染管理を実践しています。



2020年には、感染対策部門の専従看護師としてCOVID-19のパンデミックを経験しました。当時は正体不明の病原体に振り回されながらも、「患者さんと医療従事者の安全が第一」と考え対策を実践していましたが、今振り返れば過剰だったものも多くありました。渦中にいるからこそ、ときには全体を俯瞰して見る必要性を学んだ貴重な経験となりました。



2025年には、移転・新築準備が進む第三病院(現・西部医療センター)へ異動となりました。当初は設計図を片手に話し合う看護師長たちの姿に驚いていましたが、気づけば設計図は私にとっても必須のアイテムになっていました。建築中のため図面上で検討せざるを得ず、実際の現場を見ずに決める難しさもありましたが、自分たちで新しい病院を作り上げていく楽しさを感じながら準備を進めました。感染対策担当者として病院のリニューアルに関われたことは、非常に大きな経験でした。2026年1月にオープンした西部医療センターは、かつての第三病院と同様に看護学科の隣に位置しています。ぜひ、ピカピカの新病院を見に来ていただければ幸いです。

看護師としてのキャリアの中で興味を持てた分野に、今も第一線で関われていることを幸せに思っています。資格取得、コロナ禍の対応、新病院の開院準備といった経験と、そこで出会えた多くの人とのつながりを大切にしながら、これからも患者さんにも医療従事者にも安全な感染対策を実践していきたいと思います。

19期生　築山 沙耶

客船飛鳥II診療室　看護師

私は看護学科を卒業後、京都大学医学部付属病院循環器内科、CCU、HCUで11年間勤務し現在は客船飛鳥Ⅱ診療室の看護師として勤務しています。海外クルーズの際は医師２名、看護師3名体制で乗船し、国内クルーズの際は医師１名、看護師２名体制で乗船しています。船内の診療室はemergency room １つ、病室２つを備えておりＸ線撮影や採血の実施もできます。病院と異なり、薬剤師や検査技師、医療事務はいないため診療補助に加え、採血遠心分離器の使用、薬剤調剤、医療事務、薬品の発注なども全て看護師の仕事となります。また、各港についた時の水質検査や船舶衛生検査の対応、乗組員の健診なども船の看護師特有の仕事です。乗員乗客合わせて1300名程が乗船するため、風邪や骨折、怪我、持病の悪化など診療科問わず様々な知識・対応が求められます。





また、乗組員は多国籍であり外国人乗組員が多いため、コミュニケーションは英語が必須となります。病院勤務とは生活面や仕事面でも全く異なり最初は戸惑うこともありましたが、船の看護師の魅力は何といっても日常では見られない様々な景色に触れ合うことができることです。海外、国内問わず様々な寄港地に行きますが、寄港地では外出し美味しいご飯を食べたり、観光をしたりすることもできます。世界１周クルーズ、ハワイアラスカクルーズにも乗船し、雄大なアラスカ氷河や南アフリカのテーブルマウンテン、ナミビアの砂漠などなかなか見ることができない素敵な景色に触れ合うこともできました。また航海中は、見渡す限り一面の大海原であり、日々美しい朝陽や夕陽、時にはくじらやイルカなどの海洋生物に出会うことができることもこの仕事の魅力です。病院勤務では得られない経験が日々できており看護師としても成長できていると感じています。お客様が安心してクルーズを続けられ、乗組員も安心して働けるよう診療室の看護師としてサポートしていきたいと考えています。

募集します

支部通信に掲載しませんか?

自身の近況や活動を支部通信に掲載したい方がいましたら左記まで連絡をお願い致します。

▶▶連絡先：noriko_a@jikei.ac.jp（基礎看護学　青木紀子）

看護学科 公式SNS
ぜひフォローをお願いいたします
https://x.com/JikeiunivKango
YouTube https://www.youtube.com/channel/UC-YawoDzFFqOf_sFr6400_A